

特定非営利活動法人小田原なぎさ会

2023年(令和5年)度事業報告

1. 基本方針と総括(特記事項)

- 精神の障害をはじめとした色々な障害を持つ皆さんが、自立した生活を営み社会復帰と社会参画を促進するための事業を行った。
- 年度基本方針「現在取組み中の活動継続とその内容充実に重点を置く」に沿って各種活動の推進に努めた。新型コロナウイルス感染症(以下、コロナと記載)感染拡大の影響を受け一部は活動中止としたが、多くはコロナ前同様に計画通りに達成できた。
- 2019年(令和元年)度に策定した中期的活動指針「広げよう!『活動の輪』」は、本年度が推進の最終年度(5年目)になった。本方針策定翌年からコロナ感染拡大による制約が多い中での活動になったが、私達の活動にご理解と共感を持っていただける仲間(法人の会員や協働者など)を増やすことに粘り強く注力してきた。策定時に掲げた2023年度末の数値目標(正会員数100名以上)を大きく上回る結果(正会員数127名)を出し、普及啓発事業の大きな飛躍を成し遂げた。
- 4年前にコロナ感染拡大の中で創出した初めての自主製品「エコマグネット」は、普及啓発活動用途から始まり、外部の皆様から制作依頼をいただけるまで成長し、昨年度からは更なる発展を目指して一般市場での販売を開始した。工賃アップの実現と共に、作業所での日常的な作業の1つに育ってきており、更に発展させていく。
- 小田原なぎさ作業所の運営では、従前同様に「気軽に立ち寄れる居場所作り」と「本人の希望や特性を配慮した相談支援・就労支援」を活動の2本柱として取組んだ。5月8日よりコロナの位置づけが5類感染症に移行したが、その後も気を緩めることなく今までと同様の感染対策を継続し、作業所での感染発生もなく計画通りに開所を継続できた。特に施設利用者(以下、メンバーと記載)は決めたルールをしっかりと守るなど、常に協力的であったことに感謝している。そして、本年度も希望するメンバーへの就労支援を継続的に実施すると共に、新しいメンバーを受入れ、良い新陳代謝の状態を継続できている。また、来年度から義務化される「業務継続計画」(感染症や非常災害発生時の継続的なサービス提供及び早期再開を図るための計画)を策定し、取組み体制などの基盤を整えた。
- 連携事業及び普及啓発事業の一環として、医療・福祉教育機関からの学生実習受入を積極的に推進し、計画した内容を完遂した。学生とメンバーのよい交流の場にもなった。
- 当法人の活動及びその精神はSDGs(持続可能な開発目標)に深くつながっている。SDGs推進の一環として、「かながわSDGsパートナー」と「おだわらSDGsパートナー」への登録を終え、早速各自自治体との協働を開始した。また、上記「エコマグネット」の創出と販売促進への取組みについて、神奈川県から多くの賛同を得る取組みとして表彰していただいた。また、メンバーのSDGsに対する意識(特に、環境保全)も着実に向上しており、日々の言動にも良い変化が表れてきている。

2. 事業内容

- (1) 精神障害者等の社会復帰を促進する為に必要な施設の設置、運営事業
 - (2) 精神障害者等の社会復帰を促進する為の普及、啓発事業
 - (3) 関連機関・団体との連携に関する事業
- 上記、(1)～(3)の事業を推進するため、下記の各活動を行った。

尚、主な活動の実績を添付別紙1「2023年(令和5年)度の主な活動計画と実績」に示す。

* 総会・理事会・月例会議・地域ネットワーク会議等の開催

- ① 認定特定非営利活動法人小田原なぎさ会の通常総会を5月24日に開催し、年度を通じた各事業の取組み状況報告及び各議案の審議を行った。
- ② 理事会を開催し、当会の運営及び各事業について、必要な情報共有と協議を行い法人運営と事業推進に努めた。(開催日:4/19、9/13、12/20、1/17、3/13)5回
- ③ 月例会議を毎月定例開催し、当法人全般に関わる活動状況と運営施設小田原なぎさ作業所における日々の活動状況について、必要な情報共有と協議を行い法人活動及び施設運営事業の充実を図った。
(開催日:原則毎月第1金曜日)12回
- ④ 地域ネットワーク会議を開催し、地域を巻き込んだ活動展開について協議するなど関係先との連携事業を推進した。この数年はコロナ感染拡大の影響で中止にすることが多くあったが、本年度は計画した4回の会議を全て開催できた。

(1) 精神障害者等の社会復帰を促進する為に必要な施設の設置、運営事業 (地域拠点活動 等)

○小田原なぎさ作業所(以下、作業所と記載)の運営

・内容:

- ① 日々の活動であるメンバーの各種生産活動(作業)について、その生産計画策定や作業指導を職員が連携して推進した。また朝夕のミーティングや室内清掃などは、今までに構築してきたシステムを踏襲し極力メンバー主体で自主的に行うように運用している。昨年度までの経験を活かしてコロナ感染対策の継続及び運営形式の工夫などを盛り込みながら、本年度は日々の作業や各種イベントなどをほぼコロナ前同様の状態まで戻して計画・実行した。但し、バス旅行などは感染リスクを配慮し開催を中止した。これらの活動を通して、メンバーが自ら生活のリズムを整えることやソーシャルスキルを向上すること、そして自主性の育成や社会参画の意識を向上することにつながる支援を継続した。
- ② 『メンバーの自己選択・自己決定』を礎とし、メンバー1人ひとりの障害の程度や希望・特性を配慮しながら自立(自律)促進に取り組んだ。各々のメンバーとの個別面談を大切に、「目標設定⇒振り返り⇒必要な目標修正」のループを廻して面談内容の充実を図り、面談で得た情報の職員間での共有にも力を入れている。約8年前から着手した「希望するメンバーに対する就労に

向けた支援」も継続的に実施している。本年度も1名のメンバーを就労に向けてステップアップさせることができた（**P8のグラフ1参照**）。また、新しく3名のメンバーを受入れ、良い新陳代謝の状態を継続できている。一方で、以前は統合失調症のメンバーが大半であったが、近年の傾向として知的障害や発達障害を持つメンバーが増えてきていることや、メンバー自身の高齢化と共にご家族の高齢化が進んでいることがある。今後もメンバーの多様化が進むと捉え、各々の障害特性や環境変化などに応じて適切な支援ができるように努力を継続すると共に、地域包括支援センターや相談支援機関・医療機関・介護機関・保健福祉事務所・行政等との連携強化にも注力した。

- ③ 上記のメンバーの多様化に着目し、支援の質向上に向け職員への研修を引続き実施している。内部研修を毎月開催し、指導員としての知識とスキルアップにつながる取組みを継続して実施しているが、本年度は神奈川県発達障害支援センターの専門講師にご来訪していただくなど、特に発達障害に関する研修に力を入れた。
- ④ 障害者虐待防止法遵守の一環として策定した施設運営指針『利用者センター！利用者ファースト！』のもとに、虐待防止委員会の設置など虐待防止措置の体制整備と共に、職員等の定期研修を実施した。また、来年度から義務化される「業務継続計画」を策定し、この運営基盤を整えた。
- ⑤ 「障害に関する映画上映とその後の意見交換会」は、メンバー自身が自分を見つめなおす機会を設ける本来の目的に戻して開催した。
- ⑥ 「植付⇒管理⇒収穫⇒収穫祭」の一連活動として定着している畑体験は、コロナ感染対策をうちながら本来の一連体験に戻して実施した。長引くコロナ禍の中だからこそ、このように自然の中に身を置くことで、リフレッシュにもつながったと考える。今後も、協力者の応援を得ながらこの様な活動を通して、仲間同士の協力や協力者への感謝の姿勢など、人間関係構築に大切な感性を体験的に高めていくことに努めていく。
- ⑦ 9年目に入った「エコキャップ活動」は、「私たちも誰かを支援できる！」を合言葉にメンバーが主体になって推進する自主活動として定着している。色々な団体・教育機関・地域の皆様などの活動応援をいただきながら、想定を遥かに超える活動に成長しており、活動開始からの収集キャップ総重量が約3000Kg（総数130万個）近くまで達した（**P8のグラフ2参照**）。この活動が継続して大きく発展してきたからこそ、下記の自主製品「エコマグネット」の創出や本年度のSDGs推進の取組みに関する神奈川県からの表彰につながった。まさに、正のスパイラルの源がこのエコキャップ活動にあると考える。

このような活動を通して、色々な機関・団体など地域との連携やつながりを強化していくと共に、メンバー自身が自らの存在価値を再認識することや、その達成感ややりがいを感じるなどにより、自主性や社会参画意識の向上につながるように努めた。

- ⑧ コロナ禍の中で創出した自主製品「エコマグネット」は、当初の普及啓発活動用途から外部の企業や団体及び個人の皆様から製作依頼をいただけるまでに成長し、更なる発展を目指して昨年度後半から一般市場での販売を開始し

た（**P 8のグラフ3参照**）。但し、本年度はイベント会場での販売に留まり、本格的な販路拡大までには発展できなかった。

このエコマグネットはSDGsの実践製品『アップサイクル製品（当初の目的を終えたものを再使用した新たな価値ある製品）』であると共に、これらを製作するメンバーの工賃アップにもつながっている。

⑨ アルミ缶収集活動を日々の作業に位置づけを変えて工賃アップに努めた。

⑩ 外部主催の富士見地区防災訓練等への参加を本年度より再開した。作業所独自の避難訓練は、昨年度同様にコロナ感染対策をうちながら収縮梯子を使い実施した。このような活動を継続的に実施し充実させていくことで、職員・メンバーの安全確保に対する感性と行動力が着実に向上している。

⑪ ボランティア活動の皆さんの受け入れは、コロナ感染対策を徹底した上で活動していただける方の年齢などを考慮して、昨年度から再開している。

⑫ 悩みや相談ごとのあるメンバーのために、多くの相談の場を設けた。

- ・日時：開所日数246日（含：休日開所日数12日）
- ・場所：認定特定非営利活動法人 小田原なぎさ会 作業所
- ・従事者：10名程度
- ・受益対象者：小田原市、箱根町、湯河原町、真鶴町 等 利用者 34人
- ・支出額：12,392,570円

（2）精神障害者等の社会復帰を促進する為の普及、啓発事業（地域交流活動等）

○中期的活動指針「広げよう！『活動の輪』」の推進

- ・内容：普及・啓発事業の強化を目指し、5年間を一区切りとして推進してきた中期的活動指針「広げよう！『活動の輪』」は、本年度が5年目で最終年度になった。私達の活動にご理解と共感を持っていただける仲間（法人の会員や協働者など）を継続的に増やすことに注力し、本方針策定時に掲げた2023年度末の数値目標（正会員数100名以上）を大きく上回る結果（正会員数127名）を出し、普及啓発事業の大きな飛躍を成し遂げた。特に注力した一般市民への普及啓発活動の成果は大きく、一般市民の会員数が111名と対活動前で約90名増加（5倍）まで広がった（P 8のグラフ4及び5参照）。引続くコロナ禍のため多くの制約がある中での活動になったが、Eメールや郵便を活用するなど色々な工夫を凝らしながら、「熱い想いと強い意志」のもとに普及啓発や協働の投げかけを継続して推進した結果である。また、この活動により寄附金も大きく伸ばすことができた。本指針は今年度で終了とするが、普及啓発は私たちの活動の原点であり、引続き障害福祉に関する市民活動・社会活動の拡大を図り、小田原をはじめとしてあらゆる地域での市民活動・社会活動の底上げを目指す。

- ・日時：随時（年20回以上）
- ・場所：認定特定非営利活動法人 小田原なぎさ会 その他各地
- ・従事者：10名程度
- ・受益対象者：小田原市を中心とする日本各地のみなさん約500人
- ・支出額：657,521円

○地域イベントへの参加・法人イベントの企画及び実行

・内容：

- ① 楽しい音楽会(市事連主催)などは、昨年度同様にコロナ感染拡大の懸念から開催が中止になったが、赤い羽根共同募金活動(社協主催)・おだわらハートフェスタ(小田原市主催)・UMECO祭り(おだわら市民交流センターUMECO主催)・ハートメッセージ2023(県精連主催)・県民の集い(じんかれん主催)・新田公民館文化祭及び夏祭り(地域主催)等の多くのイベントは再開され、積極的に参加した。また、各イベントの場を活用して当法人の活動紹介や自主製品エコマグネットの販売にも注力した。
- ② 「なぎさ祭(第10回)」や「クリスマス地域交流会(第8回)」は、昨年度同様に規模を縮小して内部関係者とメンバーのみで開催した。

- ・日時： 随時(年10回以上)
- ・場所： 各々開催場所及び関係機関や地域全般
- ・従事者： 10名程度
- ・受益対象者： 利用者の保護者・小田原市を中心とする地域のみなさん約300人
- ・支出額： 上記“中期的活動指針「広げよう!『活動の輪』」の推進“に含む

○リーフレットや機関紙・ホームページ等の活用

・内容：

- ① リーフレットを活用して、普及啓発を推進した。
- ② 機関紙を2回発行し(No. 34:4月1日、No. 35:10月1日)、広く普及啓発に活用した。特に、中期的活動指針の推進における市民への投げかけやSDGs推進の取り組み紹介など色々な場面での発信源として有効に活用した。また会員からの反響も大きく機関紙が重要な位置づけにあることを再認識した。
- ③ 地域のご協力の下、富士見地区を中心に上記機関紙の配布(回覧)を継続的に推進し、地域交流や普及啓発に注力した。
- ④ 小田原地区を中心として合計14カ所(13機関及び1店舗)にリーフレットを常設させていただき継続した普及啓発に努めているが、本年度はメンテナンス(リーフレット補充など)が滞ることがあり、反省点である。
- ⑤ 情報発信のツールとして効果的と考えるホームページを活用し、当法人の活動紹介と地域社会への理解や協働の投げかけを発信した。但し、タイムリーな更新が滞ることがあり、反省点である。

*上記各種の発信源は、新しい通所希望者や新規入会希望者及びボランティア活動希望者等へのつながりツールとして活用実績が出ている。

- ・日時： 常時
- ・場所： 認定特定非営利活動法人 小田原なぎさ会
- ・従事者： 数名程度
- ・受益対象者： 機関紙発行部数1200部、
HP累計ビューワ一件数11730件(2024年3月31日現在)
- ・支出額： 上記“中期的活動指針「広げよう!『活動の輪』」の推進“に含む

○精神障害者の就労支援の拡大展開（例；企業とのコラボ活動探索）

- ・内容：本年度はコロナ感染の影響を引きずり、一部企業とのコンタクトに留まった。今までに実施してきた①大小企業・②小田原箱根商工会議所・③小田原公共職業安定所（ハローワークおだわら）とのコンタクトや小田原ロータリークラブでの講演などを含めて、精神障害者の就労拡大（雇用と定着）につながる協働の投げかけを今後も粘り強く推進していく。
- ・日時： 随時
- ・場所： 地域全般
- ・従事者： 数名程度
- ・受益対象者：国内外の支援企業・団体 等
- ・支出額：上記“中期的活動指針「広げよう！『活動の輪』」の推進“に含む

○行政への要望活動

- ・内容：2024年度に向けた要望書を小田原市長へ提出すると共に、市長と面談して要望内容を直接説明した。また、同時に全ての小田原市議会議員へ同要望書を写しとして配布した。本年度は、特に「地域活動支援センターに対する補助金の増額」を強く要望した。これは、制度化以来10年以上にわたる同じ補助金システム及び金額を、現在の賃上げの潮流に即したものに改善することを求めたものである。また、長期にわたり粘り強く要望している「自治体区分を越えた包括的な障害者支援」や「精神障害者の就労支援の強化（雇用促進の取組強化と就労定着に向けた環境整備）」及び「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた実効ある取組み」の推進についても要望した。
- ・日時： 3月1日
- ・場所： 小田原市役所
- ・従事者： 数名程度
- ・受益対象者：県・小田原市・医療機関・福祉機関 等
- ・支出額：上記“中期的活動指針「広げよう！『活動の輪』」の推進“に含む

(3) 関連機関・団体との連携に関する事業（地域ネットワーク活動 等）

○地域ネットワーク会議（広域・近隣）

- ・内容：医療・福祉・行政などの機関や地域住民の方々に参加していただき、地域福祉の推進に向けたネットワーク会議を計画通りに4回開催した。2017年度から広域と近隣の2部構成として試行してきたが、概ねこの開催形式が定着化してきている。今後も各々の会議構成者の特徴を活かして、ネットワーク構築の更なる強化と協働への手がかりを探索していく。
- ・日時：地域ネットワーク会議（広域） 開催2回 開催日：6/21、12/6
地域ネットワーク会議（近隣） 開催2回 開催日：7/26、2/21
- ・場所：認定特定非営利活動法人 小田原なぎさ会
- ・従事者：10名程度
- ・受益対象者：ネットワーク会議参加団体及び地域住民のみなさん 15名程度
- ・支出額：614,644円

○関係団体や連携団体との交流活動

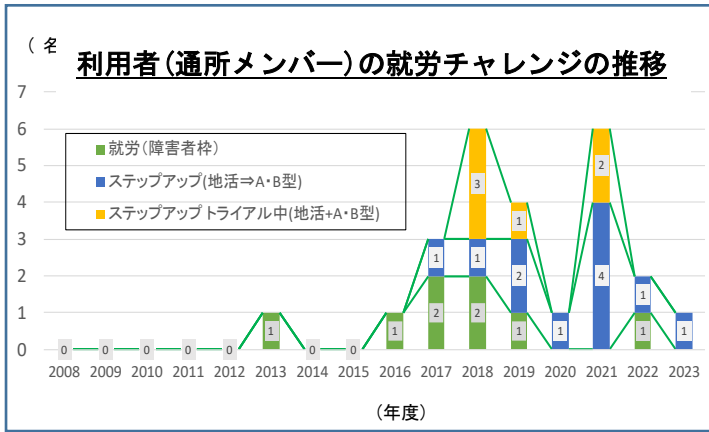
- ・内容：神奈川県精神障害者地域生活支援団体連合会（県精連）や小田原市障害者事業所連絡会（市事連）及び地域精神保健福祉連絡協議会などの関連団体や連携団体との協議や研修及びイベントに積極的に参加し、法律改正をはじめとした新しい情報の入手や意見交換などに努めた。
- ・日時：年10回程度
- ・場所：神奈川県内、小田原市周辺
- ・従事者：10名程度
- ・受益対象者：県・市内の関係団体 10数団体
- ・支出額：上記“地域ネットワーク会議（広域・近隣）”に含む

○教育機関との協働活動

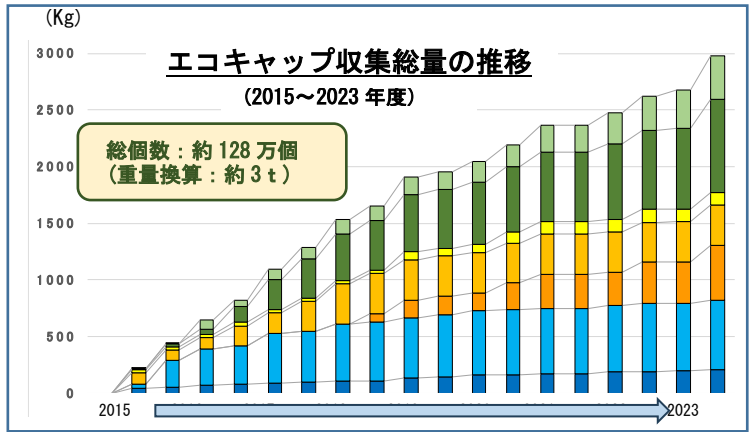
- ・内容：連携事業及び普及啓発事業の一環として、教育機関からの学生実習受入を本年度も推進した。神奈川県立平塚看護大学校（臨地実習及び地域密着健康教育学習）との協働である。本年度もコロナ感染対策をうちながら、当初計画通りに学生学習の対応を無事終えることができた。地域密着健康教育学習では、本年度も学習結果報告会に参加させていただき、学生の学びや成長を直接的に感じる事が出来た。
これらの医療・福祉系教育機関との協働関係を深めていくことにより、当法人が持つ社会的資源を活用していただくと共に、メンバーや職員にとっても若者たちとのよい交流や学習の場に育っている。
- ・日時：年20回程度
- ・場所：神奈川県内、小田原市周辺
- ・従事者：7名
- ・受益対象者：県・市内の関係教育機関 1団体 ・支出額：上記“地域ネットワーク会議（広域・近隣）”に含む

○SDGs推進による連携・協働の拡大

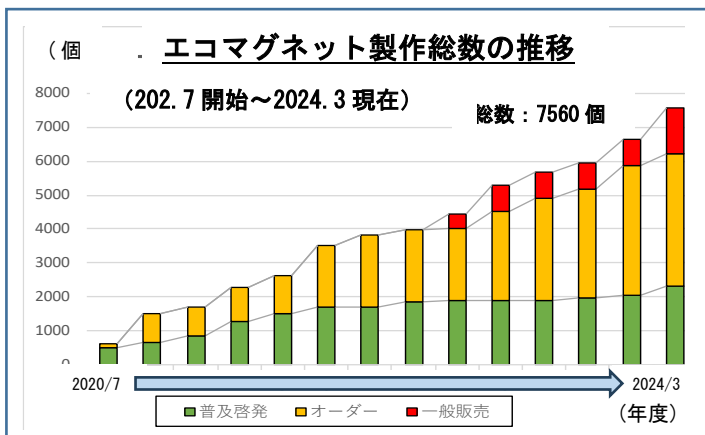
- ・内容：神奈川県及び小田原市の審査を通過し、各々「かながわSDGsパートナー」及び「おだわらSDGsパートナー」としての登録を完了した。早速、おだわらSDGs実行委員会との意見交換や各種パートナー登録企業・団体との交流を開始した。また、神奈川県のSDGs企画に「『エコマグネット』の創出と販売促進への取組み」をテーマとして応募し、栄えある2023年度の「みんなのSDGs賞」を受賞した。この受賞により、普及啓発事業にもつながる多くの反響を得て、私たちの活動を広く認知していただくことができた。また、SDGs推進の取組みを通して、活動分野に捉われることなく広く連携・協働する可能性の探索と普及啓発の拡大に新たな一歩を踏み出すことができた。
- ・日時：年10回程度
- ・場所：神奈川県内、小田原市周辺
- ・従事者：数名程度
- ・受益対象者：関係自治体及び県・市内を中心とした関係企業及び団体 等
- ・支出額：上記“地域ネットワーク会議（広域・近隣）”に含む



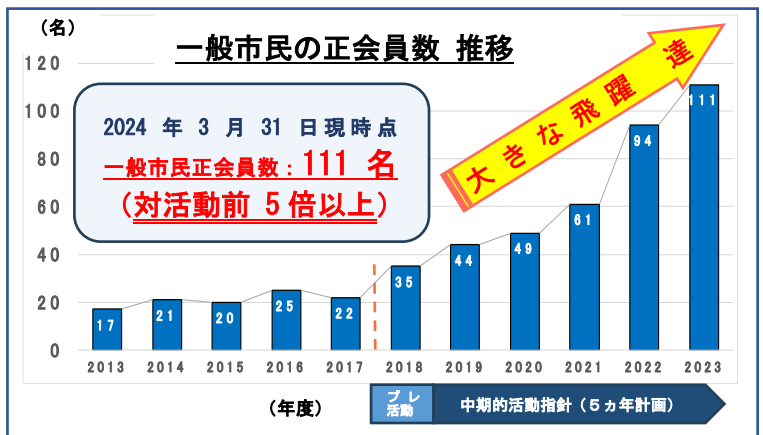
グラフ 1 (就労に向けた支援の推移状況)



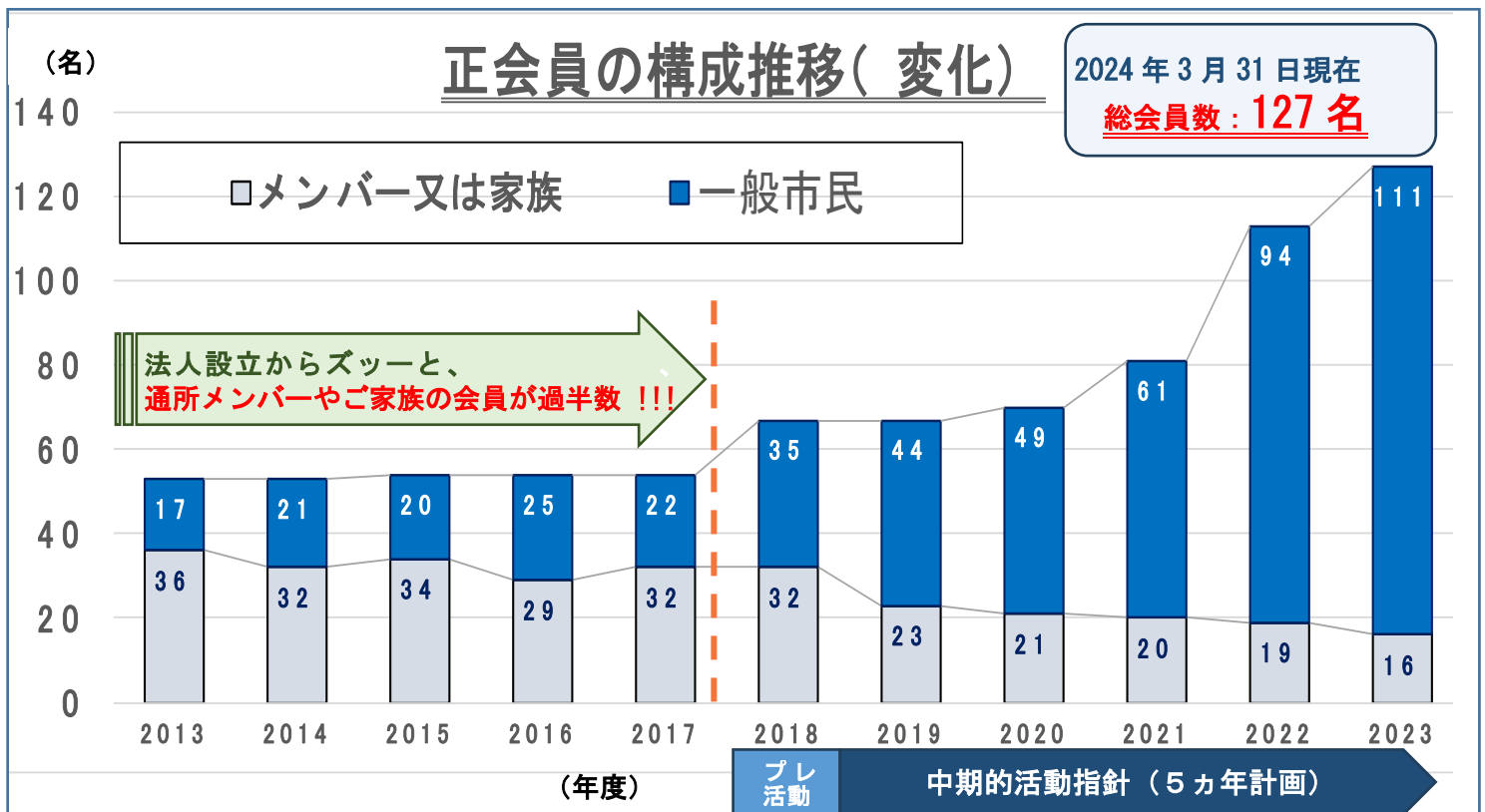
グラフ 2 (エコキャップ活動の推移状況)



グラフ 3 (エコマグネット製作総数の推移状況)



グラフ 4 (一般市民の正会員数の推移状況)



グラフ 5 (普及啓発活動による正会員構成変化の状況)